

# 人流データを活用した 都内訪問者の行動傾向

## Vol.1

### ～データから分かる区市町村別 訪問者傾向とは？～

発行日：2024年12月23日

発行者：公益財団法人東京観光財団(TCVB)

協力：東京都立大学都市環境学部観光科学科ツーリズム・モビリティ計画学研究室



# はじめに

- 公益財団法人東京観光財団（以下「TCVB」という）は、令和4年度より人流データを活用した観光動態分析ツール、「おでかけウォッチャー」を導入しました。本ツールでは、携帯電話のGPS情報※データを活用し、広範囲、かつ大規模な人流データをリアルタイムで取得し、都内観光スポットへの来訪者数、来訪者の属性等を分析することが可能です。 ※140以上のスマートフォンアプリを通じて利用者から明示的な同意を得て取得した月間2,500万人の国内居住者の位置情報
- 現在、都内の主な観光スポットを含む約1,900か所をモニタリング地点として登録し、国内在住者の東京都への来訪者動向の把握のために活用しています。
- また、令和6年度は、都内の6つの観光協会・自治体等と共同運営しており（TCVBと同一のダッシュボードを利用）、各自治体における観光人流の把握やマーケティング活動にも活用いただいております。
- TCVBは本年度より、本取組をより多くの自治体や観光協会の皆様にお役立ていただけるよう【東京都立大学都市環境学部観光科学科ツーリズム・モビリティ計画学研究室（清水哲夫教授）】にご協力いただき、「おでかけウォッチャー」から分かる都内の来訪者傾向等についてレポートを公開することと致しました。
- Vol.1となる本レポートでは「おでかけウォッチャー」の活用から分かる東京都内への来訪者の行動傾向について、地域別の傾向や、各自治体の強み・弱み等をまとめたものです。
- 本レポートが、都内の自治体や観光産業に関わる皆様の地域における訪問者傾向の現状把握や、マーケティング活動の一助となれば幸いです。

# CONTENTS

1. 東京都自治体の訪問者数変動パターンのバリエーションを理解する（スライド2～4）
2. 遠隔地からの東京都自治体への訪問者数の特徴を理解する（スライド5～7）
3. 本レポートから分かること：まとめ（スライド8）

「おでかけウォッチャー」で分かること  
日、週、月単位等で、以下の情報が分かる。  
※対象は国内在住者のみ

1. 来訪地分析（どこへ来ているのか）
2. 発地分析（どこから来ているのか）
3. 属性分析（どんな層がきているのか）
4. 前後別周遊分析（どこをどこを周遊しているのか）
5. 旅程分析（日帰り・宿泊比率）
6. 時間分析（時間帯別来訪者）



# 1. 東京都自治体の訪問者数変動パターンのバリエーションを理解する

人流データから分析できることを考える際に、そもそも自治体やエリアへの訪問者数の年間変動パターンが、相互にどの程度似ているのか、あるいはどのくらいの違いがあるのかに、まずは興味を持たれるのではないのでしょうか？ おでかけウォッチャーの2023年データをエクスポートして、東京都下自治体への訪問者（国内在住者）数変動パターンを統計的に分類してみます。

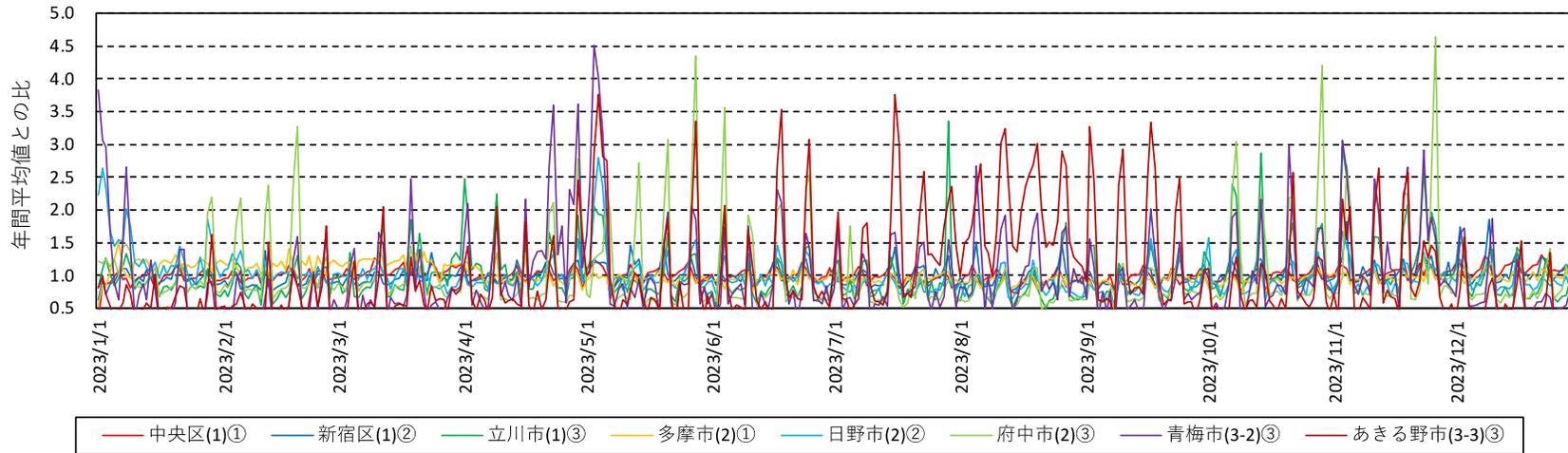
全自治体（ただし西多摩、島嶼部の自治体はそれぞれ郡、支庁に統合）の月平均来訪者数と曜日平均来訪者数をそれぞれ用いた**クラスター分析**\*1を行い、前者から月変動クラスターを5つ、後者から曜日変動クラスターを3つ、それぞれ抽出しました。

			曜日変動クラスター		
			①	②	③
			金曜ピーク	土曜ピーク	土日ピーク
月変動クラスター	(1)	通年安定	千代田区, 中央区, 港区, 品川区, 北区, 足立区, 三鷹市, 国分寺市, 東久留米市	新宿区, 台東区, 墨田区, 江東区, 目黒区, 渋谷区, 杉並区, 豊島区, 板橋区, 練馬区, 八王子市, 武蔵野市, 昭島市, 小金井市, 国立市, 東大和市	立川市, 町田市, 西多摩郡
	(2)	冬季(1~3月)ピーク	小平市, 東村山市, 清瀬市, 多摩市	世田谷区, 葛飾区, 日野市, 狛江市, 羽村市, 西東京市	府中市, 調布市, 武蔵村山市
	(3-1)	3,8,9月ピーク	荒川区	稲城市, 大島支庁, 八丈支庁	
	(3-2)	4,5,11月ピーク	福生市	江戸川区	青梅市
	(3-3)	夏季(7,8月)ピーク		三宅支庁, 小笠原支庁	あきる野市

例えば、千代田区や中央区が含まれる(1)①（通年安定/金曜ピーク）のクラスターでは、月間訪問者数の違いは小さく安定しており、週内では金曜日の訪問者数が大きいことから、業務による訪問者が多い自治体だと判断できるでしょう。新宿区や台東区が含まれる(1)②（通年安定/土曜ピーク）のクラスターは、土曜日に買物や飲食を目的に訪問する人が多い可能性があります。あきる野市が含まれる(3-3)③（夏季ピーク/土日ピーク）のクラスターでは、夏休み期間の週末に訪問者が集中しており、オフピーク期の集客に課題を抱えていると考えられます。皆さんが把握されている自地域の観光人流の実態や、オン・オフシーズンの認識との違いはありますか？ その他のクラスターについても、その特徴を考察してみましょう。

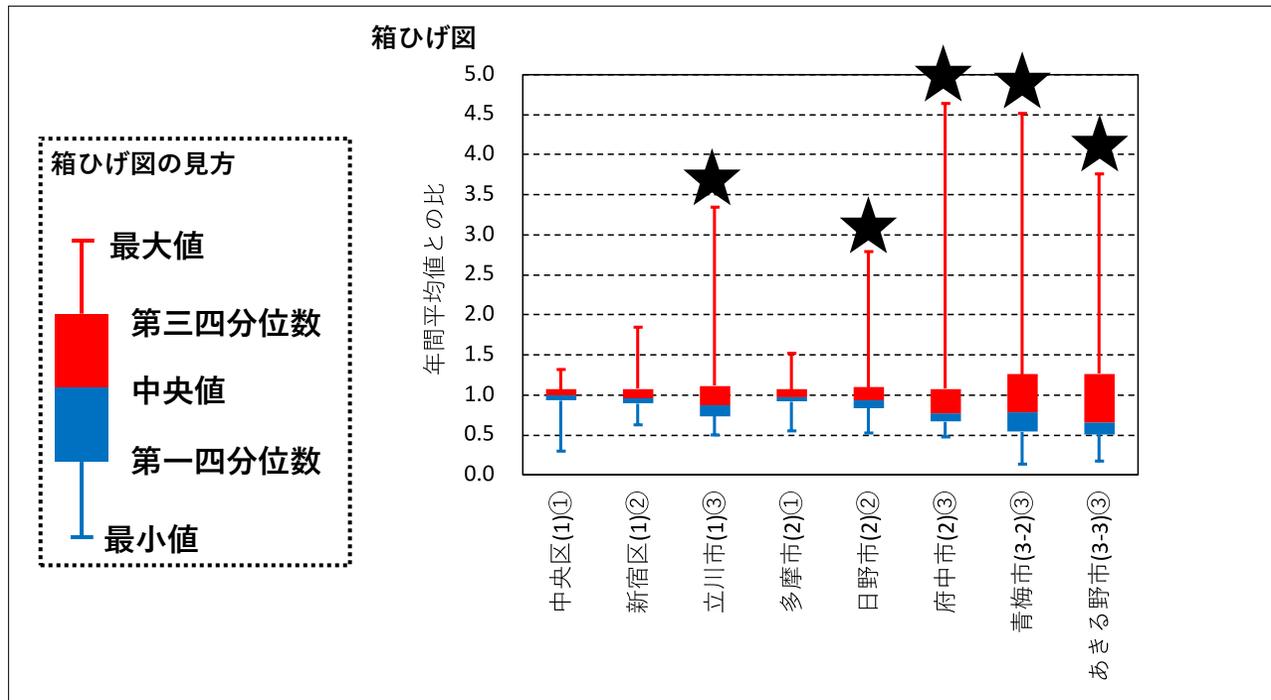
\*1 各自治体の月別および曜日別の訪問者数の構成比を説明変数とし、似たような傾向を持つ自治体群をクラスターとしています。

# ○各クラスターの主要自治体の状況分析（1-1）



日訪問者数のグラフだけを見てもその特徴が掴みづらいので、月別や曜日別に集計したり、表現方法を工夫したりします。

▼左下の箱ひげ図\*2では、立川市、府中市、日野市、青梅市、あきる野市では、最大値が中央値よりも遥かに大きいことが読み取れます。そのことから、各地域の訪問者数ピークの特徴が見えてきます。



★ マークを付けた自治体の訪問者数ピーク

立川市：7/29の花火大会にピークを迎えます

日野市：正月三が日にピークを迎えます（最大値は1/2）

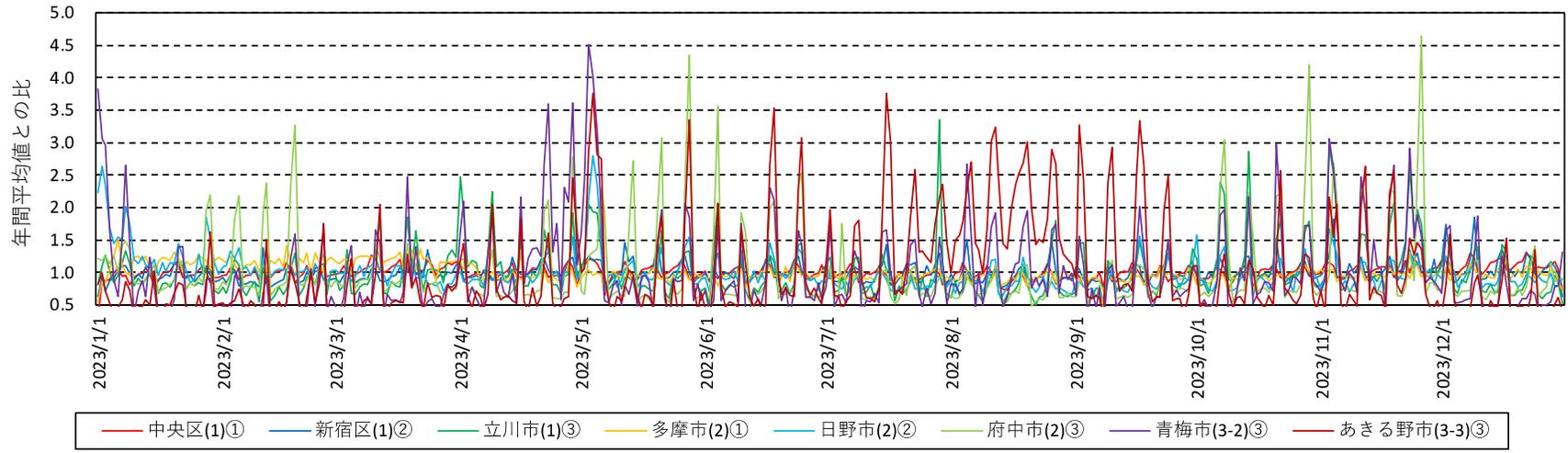
府中市：東京競馬場でのGIレース開催日（最大値は5/28の日本ダービー）にピークを迎えます

青梅市：GW後半にピークを迎えます（最大値は5/3）

あきる野市：海の日三連休にピークを迎えます（最大値は7/16）

\*2 365日間の日訪問者数の最大値から最小値までを順に並べ、上位25%に当たる日訪問者数を第三四分位数、下位25%に当たる日訪問者数を第一四分位数、50%に当たる日訪問者数を中央値として、これらの関係を視覚的に分かるようにしたグラフです。

# ○各クラスターの主要自治体の状況分析（1-2）

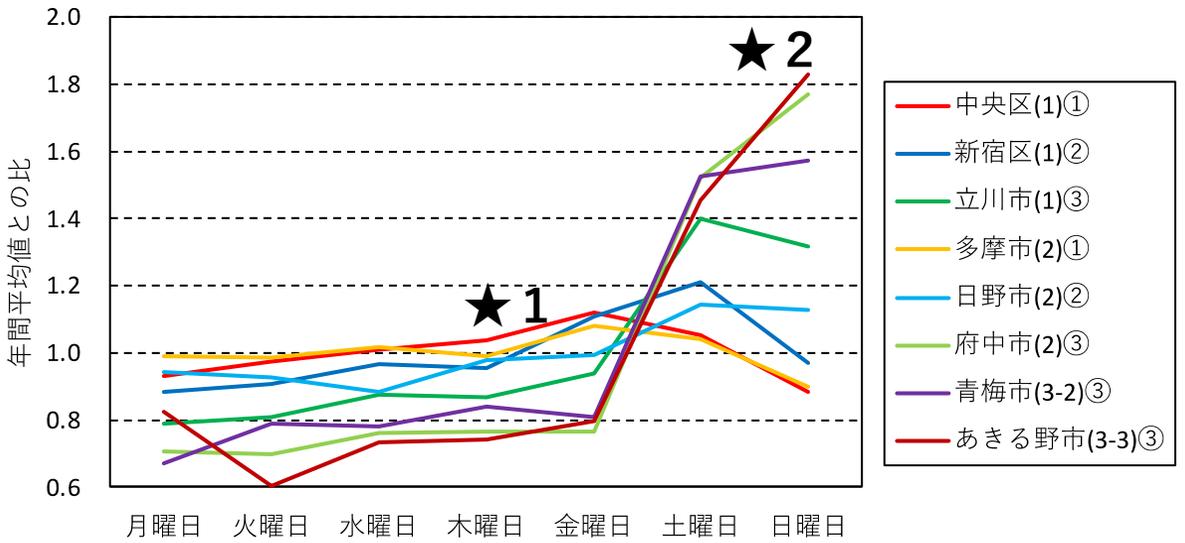
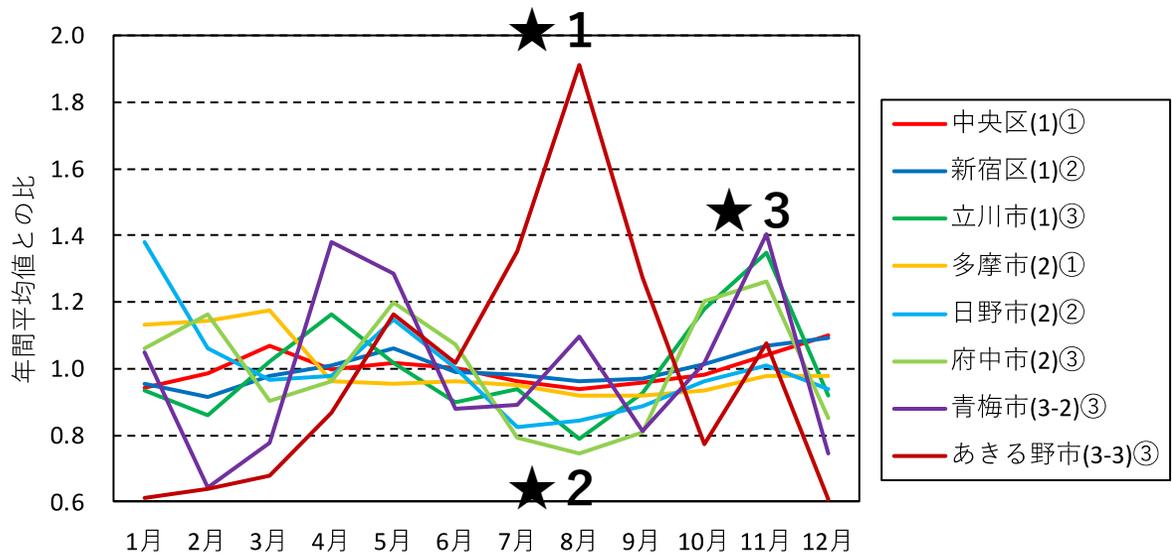


次に、月別、曜日別の傾向を見てみます。

▼左下の月平均訪問者数では、特に多摩地域の自治体の変動が大きいことが読み取れます。

▼右下の曜日平均訪問者数では、多摩地域の自治体は土日の比率が非常に大きくなっています。

これらの理由について、主要集客スポットの資源としての特徴から理解してみましょう。



- ★1・・・あきる野市は8月の来訪者数が年間平均の2倍
- ★2・・・夏休み期間中の来訪者数が最も少ない自治体も多い（府中市、日野市、立川市、多摩市等）
- ★3・・・紅葉シーズンは多くの自治体で来訪者数が多い（青梅市、立川市、府中市等）

- ★1・・・中央区、多摩市は平日の方が来訪者数が多い
- ★2・・・府中市、青梅市、あきる野市は週末に来訪者数が大幅に増加

## 2. 遠隔地からの東京都自治体への訪問者数の特徴を理解する

次に、各自治体がどの地域からの訪問者を獲得しているのか、どんな性・年齢階級の訪問者を獲得しているのか、興味を持たれるのではないのでしょうか？そこで、おでかけウォッチャーの発地分析のうち、2023年の距離フィルターを100km以上とした各自治体への訪問者数データをエクスポートして、発地や性・年齢階級の分布パターンを統計的に分類してみます。

全自治体（ただし西多摩、島嶼部の自治体はそれぞれ郡、支庁に統合）について、発地地方と性別年齢階級別の訪問者数を加工した「訪問者数対人口比率」\*3を用いたクラスター分析を行い、前者・後者ともにクラスターを6つ抽出しました。

### ① 「発地地方」によるクラスター分析の結果(数値はクラスターの訪問者数対人口比率)

クラスター	北海道	東北	関東(一都三県除く)	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州沖縄	自治体
A11	0.94	1.19	0.74	1.26	1.25	0.99	0.79	0.79	0.82	中央区、港区、新宿区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、世田谷区、渋谷区、葛飾区、東久留米市、多摩市
A12	0.70	1.71	0.68	1.65	1.31	0.95	0.70	0.56	0.57	千代田区、文京区、台東区、中野区、杉並区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、足立区、江戸川区、武蔵野市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、小金井市、小平市、西東京市
A2	0.82	1.51	1.02	1.09	1.54	0.88	0.64	0.17	0.69	青梅市、町田市、東大和市、羽村市、小笠原支庁
B1	0.47	1.53	1.67	2.68	1.41	0.60	0.30	0.14	0.48	福生市、武蔵村山市、あきる野市、西多摩郡
B2	0.96	1.71	0.74	2.28	1.03	0.89	0.54	0.48	0.66	荒川区、八王子市、立川市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、狛江市、清瀬市、稲城市
C	2.78	0.61	0.52	0.53	0.30	0.56	1.15	1.77	2.18	大田区、大島支庁、三宅支庁、八丈支庁

訪問者数対人口比率の大きさから各クラスターの特徴を推測すると、以下のようなことが考えられる

A11. 全国からまんべんなく訪問者を集めている傾向にある

A12. 東北・上越・北陸新幹線からの動線が強い傾向にある

A2. 東北・東海道新幹線からの動線が強い傾向にある

B. 中央本線・中央自動車道からの動線が強い傾向にある

C. 共通の傾向がない

### ② 「性・年齢階級」によるクラスター分析の結果(数値はクラスターの訪問者数対人口比率)

クラスター	女20	女30	女40	女50	女60	男20	男30	男40	男50	男60	自治体
a1	1.32	0.80	0.83	0.70	0.77	1.33	1.44	1.13	0.97	0.88	千代田区、中央区、港区、文京区、台東区、墨田区、江東区、目黒区、世田谷区、渋谷区、杉並区、豊島区、練馬区、江戸川区、立川市、武蔵野市、三鷹市、昭島市、多摩市
a2	1.09	0.71	0.80	0.62	1.07	1.27	1.58	1.00	1.19	0.78	小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、狛江市、東久留米市、西東京市
b1	0.83	0.79	0.72	0.65	0.62	1.11	1.79	1.11	1.18	1.26	東大和市、清瀬市、大島支庁、三宅支庁、八丈支庁、小笠原支庁
b21	0.97	0.71	0.75	0.67	0.81	1.02	1.54	1.25	1.19	1.11	品川区、大田区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、八王子市、青梅市、町田市、国立市、福生市、羽村市
b22	1.29	0.70	0.69	0.63	0.63	1.89	1.48	1.11	1.04	0.78	新宿区、中野区、板橋区、府中市、調布市、稲城市、あきる野市、西多摩郡
c	1.29	0.00	0.00	0.16	0.35	1.06	0.86	0.93	0.91	4.77	武蔵村山市

a. 性・年齢階級による偏りは相対的に小さい

b1. 男性に偏っている

b21. やや男性に偏っている

b22. 若年層に偏っている

\*3

▼発地は地方運輸局ベース(沖縄は九州に統合)である。発地分析で100km以上の距離フィルターを掛けているため、一都三県を発地とする訪問者はほとんど検出されないことから、関東は茨城県、栃木県、群馬県、山梨県としている。

▼各自治体への発地地方別訪問者数の構成比と、発地地方の2023年10月人口の構成比の比率を変数としている。例えばある発地地方の訪問者数構成比が10%で、人口構成比が8%の場合、比率は10/8=1.25となる。比率が1より遥かに大きい場合は、その発地地方からの訪問者数が卓越していることを表している。

▼性・年齢階級の分析では、20~60歳(10歳刻み)男女の訪問者数構成比と2023年10月時点の人口構成比の比率を変数としている。同様に、比率が1より遥かに大きい場合は、その性・年齢階級の訪問者数が卓越していることを表している。

# ○各クラスターの主要自治体の状況分析（2-1）

【再掲】①「発地地方」によるクラスター分析の結果(数値はクラスターの訪問者数対人口比率)

クラスター	北海道	東北	関東(一都三県除く)	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州沖縄	自治体
A11	0.94	1.19	0.74	1.26	1.25	0.99	0.79	0.79	0.82	中央区, 港区, 新宿区, 墨田区, 江東区, 品川区, 目黒区, 世田谷区, 渋谷区, 葛飾区, 東久留米市, 多摩市
A12	0.70	1.71	0.68	1.65	1.31	0.95	0.70	0.56	0.57	千代田区, 文京区, 台東区, 中野区, 杉並区, 豊島区, 北区, 板橋区, 練馬区, 足立区, 江戸川区, 武蔵野市, 三鷹市, 府中市, 昭島市, 調布市, 小金井市, 小平市, 西東京市
A2	0.82	1.51	1.02	1.09	1.54	0.88	0.64	0.17	0.69	青梅市, 町田市, 東大和市, 羽村市, 小笠原支庁
B1	0.47	1.53	1.67	2.68	1.41	0.60	0.30	0.14	0.48	福生市, 武蔵村山市, あきる野市, 西多摩郡
B2	0.96	1.71	0.74	2.28	1.03	0.89	0.54	0.48	0.66	荒川区, 八王子市, 立川市, 日野市, 東村山市, 国分寺市, 国立市, 狛江市, 清瀬市, 稲城市
C	2.78	0.61	0.52	0.53	0.30	0.56	1.15	1.77	2.18	大田区, 大島支庁, 三宅支庁, 八丈支庁

A11. 全国からまんべんなく訪問者を集めている傾向にある

A12. 東北・上越・北陸新幹線からの動線が強い傾向にある

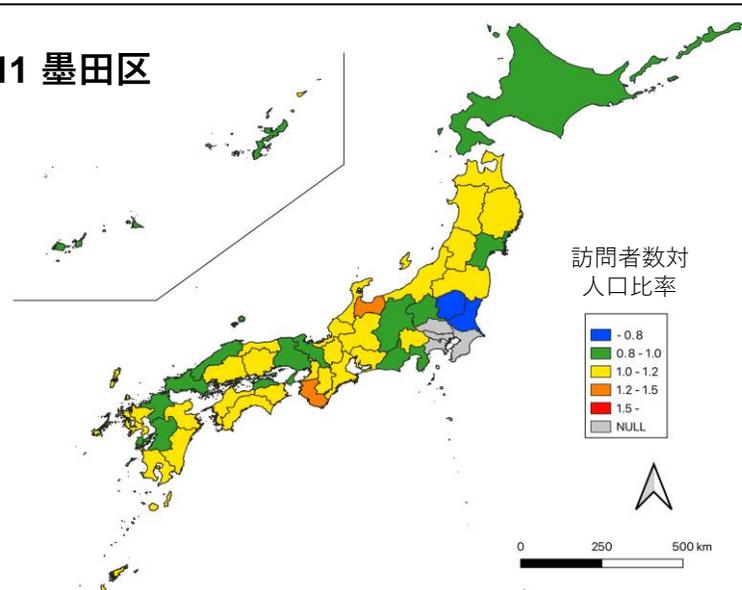
A2. 東北・東海道新幹線からの動線が強い傾向にある

B. 中央本線・中央自動車道からの動線が強い傾向にある

C. 共通の傾向がない

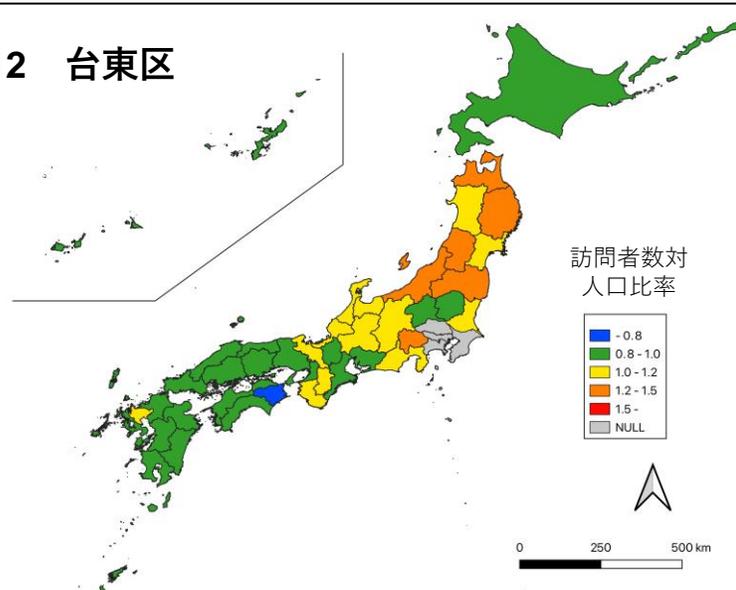
## 「発地地方」のクラスター（A11、A12、A2から1自治体を例に抽出）

A11 墨田区



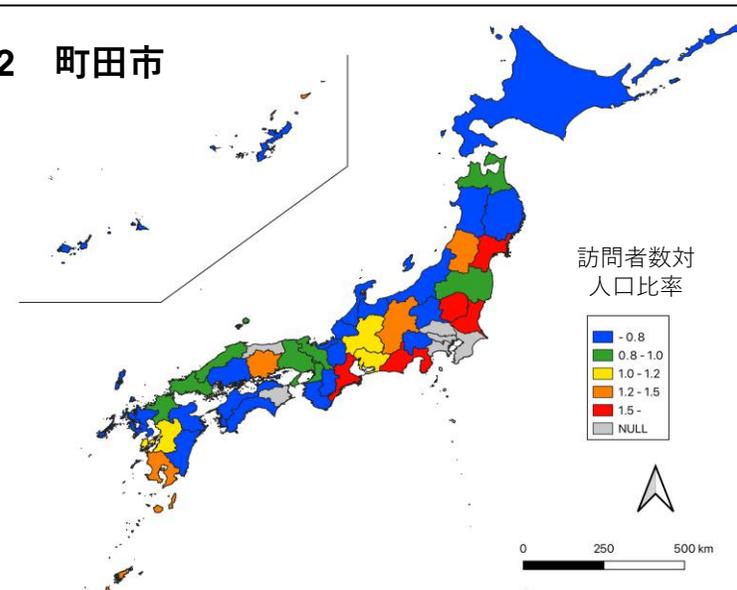
▼東北から九州まで、黄色や橙色の府県が多く、広域からまんべんなく集客できている。

A12 台東区



▼西日本の府県のほとんどが緑色や青色となっており、東日本中心の集客になっている。

A2 町田市



▼宮城県, 静岡県, 三重県, 栃木県など、新幹線沿線県を中心に赤色や橙色の県が多い一方、北東北, 北陸, 四国, 東九州など、アクセスが難しい県は青色（集客できていない）になっている。©2024 Tokyo Convention & Visitors Bureau

# ○各クラスターの主要自治体の状況分析（2-2）

【再掲】②「性・年齢階級」によるクラスター分析の結果(数値はクラスターの訪問者数対人口比率)

クラスター	女20	女30	女40	女50	女60	男20	男30	男40	男50	男60	自治体
a1	1.32	0.80	0.83	0.70	0.77	1.33	1.44	1.13	0.97	0.88	千代田区, 中央区, 港区, 文京区, 台東区, 墨田区, 江東区, 目黒区, 世田谷区, 渋谷区, 杉並区, 豊島区, 練馬区, 江戸川区, 立川市, 武蔵野市, 三鷹市, 昭島市, 多摩市
a2	1.09	0.71	0.80	0.62	1.07	1.27	1.58	1.00	1.19	0.78	小金井市, 小平市, 日野市, 東村山市, 国分寺市, 狛江市, 東久留米市, 西東京市
b1	0.83	0.79	0.72	0.65	0.62	1.11	1.79	1.11	1.18	1.26	東大和市, 清瀬市, 大島支庁, 三宅支庁, 八丈支庁, 小笠原支庁
b21	0.97	0.71	0.75	0.67	0.81	1.02	1.54	1.25	1.19	1.11	品川区, 大田区, 北区, 荒川区, 足立区, 葛飾区, 八王子市, 青梅市, 町田市, 国立市, 福生市, 羽村市
b22	1.29	0.70	0.69	0.63	0.63	1.89	1.48	1.11	1.04	0.78	新宿区, 中野区, 板橋区, 府中市, 調布市, 稲城市, あきる野市, 西多摩郡
c	1.29	0.00	0.00	0.16	0.35	1.06	0.86	0.93	0.91	4.77	武蔵村山市

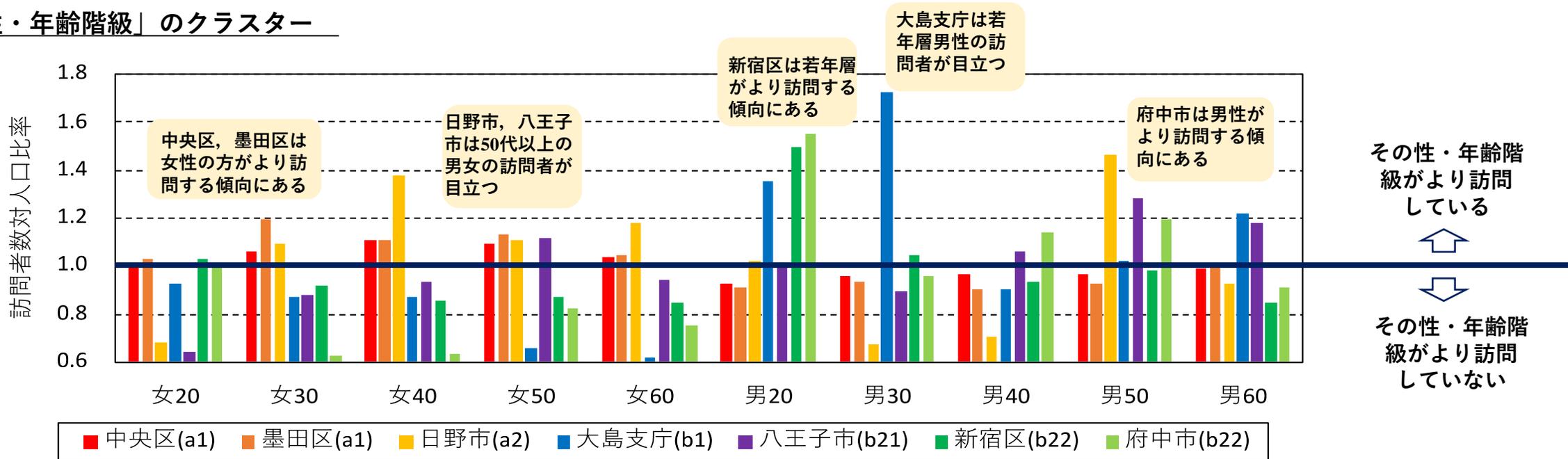
a. 性・年齢階級による偏りは相対的に小さい

b1. 男性に偏っている

b21. やや男性に偏っている

b22. 若年層に偏っている

## 「性・年齢階級」のクラスター



### 3. 本レポートから分かること：まとめ

今回は、訪問者数の変動パターン、遠隔地からの訪問者数等で、都内の各地域の観光人流の特徴を確認しました。分かったことと、活用に向けたポイントは下記の通り。

#### 1. 東京都自治体の訪問者数変動パターンのバリエーションを理解する

⇒スライド2～4で示したように、【通年安定】【冬季ピーク】や【金曜ピーク】【土曜ピーク】等、各地域（自治体）のオン・オフシーズン及び曜日による訪問者数の変動が見えてきました。

##### さらなる活用に向けたポイント（例）

- 1) 分類は、各自治体・観光協会の認識とほぼ同じであったか、またはギャップがあったか
- 2) 同じ分類になった地域とは、互いに誘客戦略やターゲティングしている地域が同じだろうか
- 3) 年間を通じてオフシーズンがある場合、どうしたら安定的な集客に繋がるだろうか、【通年安定】に分類された地域との違いは何だろうか

#### 2. 遠隔地からの東京都自治体への訪問者数の特徴を理解する

⇒スライド5～7で示したように、全国からまんべんなく訪問者がいる自治体と、新幹線や高速道路等、交通網の影響を受けている自治体があることが見えてきました。性・年齢階級においても、女性が多い自治体、若者または50代以上の訪問者が多い自治体があることが見えてきました。

##### さらなる活用に向けたポイント（例）

- 1) 分類は、各自治体・観光協会の認識とほぼ同じであったか、またはギャップがあったか
- 2) 実際の誘客戦略（広報エリアやターゲティングしている性・年齢層）と、今回の分析結果が違う場合、どのように誘客戦略を変更すべきだろうか
- 3) 本当は若者を誘致したいが、現状出来ていない場合、若者が多い自治体との違いは何だろうか

#### 【まとめ】

今回のレポートでは、人流データを活用した観光動態分析ツール「おでかけウォッチャー」から、都内の各地域への来訪者傾向を分析しました。観光データの活用について、様々な議論や取組が進んでいますが、自地域への訪問者傾向について、デジタルデータをフルに活用できている都内地域は、まださほど多くはありません。本レポートで分かった各地域が持つ特徴や現状を活用し、そこからより実態に見合った誘客促進のネクストアクションに役立てて頂ければ幸いです。

すでにおでかけウォッチャーを活用している皆様へ：おでかけウォッチャーのデータをダッシュボードからエクスポートして、独自の統計分析を行いました。このことで、自治体間の人流の状況を簡単に比較することができ、各自治体がどの自治体と状況が似ているかが客観的に理解できると思います。おでかけウォッチャーの使い方に慣れてくると、もう少し踏み込んだ独自の分析を行ってみたいくなるでしょう。今回は取り扱いませんでしたが、性・年齢階級と発地を組み合わせ分析したり、「旅程分析」や「時間分析」を通じてナイトタイムや宿泊の特徴を理解したり、より詳細な分析が可能ですので、是非トライしてみてください。